

令和5年度現職教員研修推進本部・先端教育人材育成推進機構シンポジウムアンケート結果

0.実施概要

テーマ：東京学芸大学における新たな教師の学びの姿を実現する研修コンテンツの開発状況
と今後の活用に関する提案

日時：令和5年9月28日（木）14時00分～17時00分

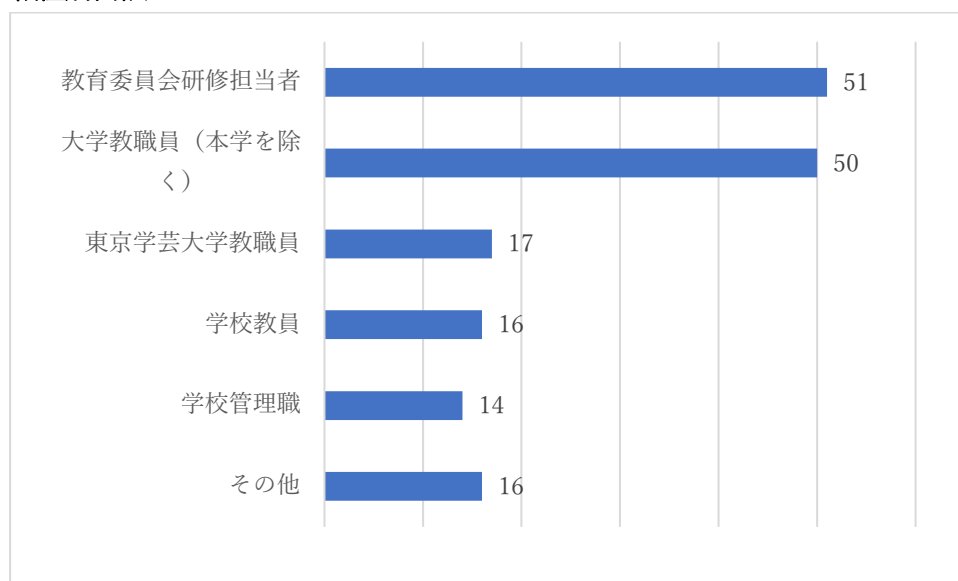
場所：オンライン開催（Zoom）

対象：教育委員会研修担当者、学校管理職、大学教職員

1.申込状況

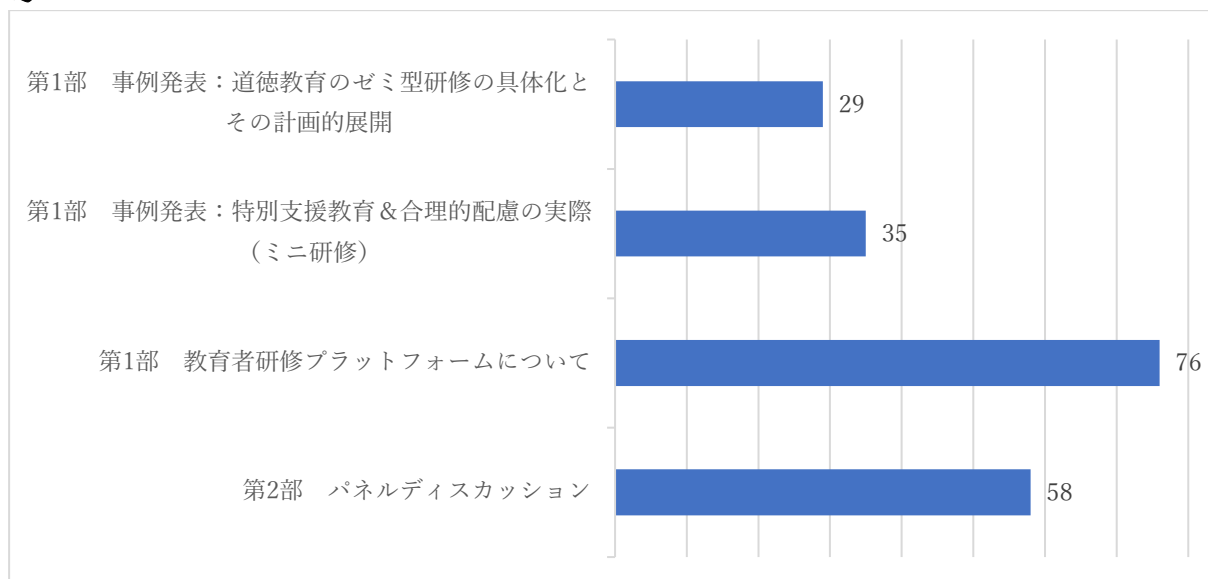
申込者数：164名

職種別内訳



【その他】大学院生・教育関連企業等

Q2. 特に関心のあるプログラムはどれですか。(任意・複数回答可)



2. 参加状況

参加者：151名

3. 事後アンケート

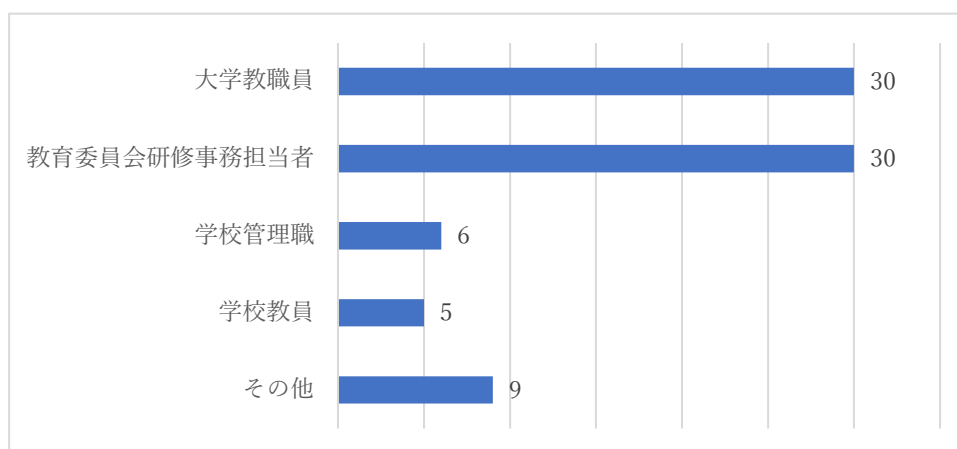
実施方法：オンライン

実施期間：令和5年9月28日（木）～10月3日（火）

回答数：80

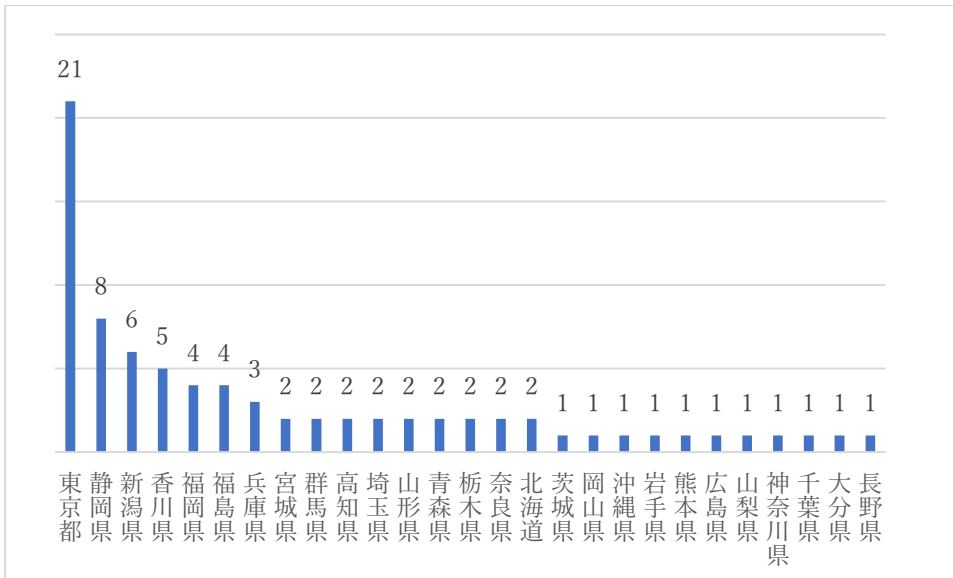
回答率：52.9%

Q1.あなたの職種を教えてください。

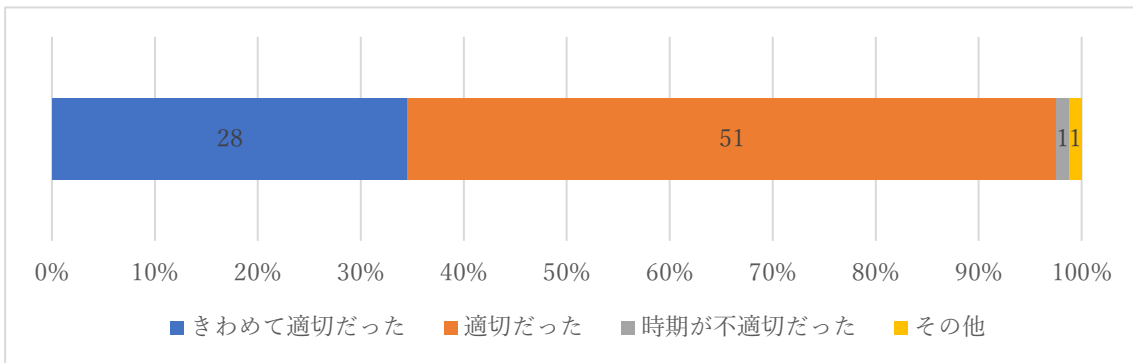


【その他】大学院生・教育センター・教育企業・報道等

Q2.所属機関のある都道府県名を教えてください。



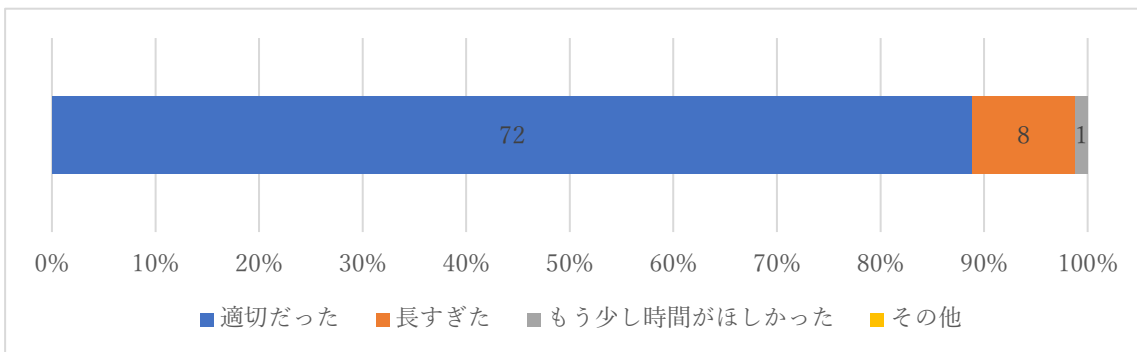
Q3.シンポジウムの設定した時期について



【意見】

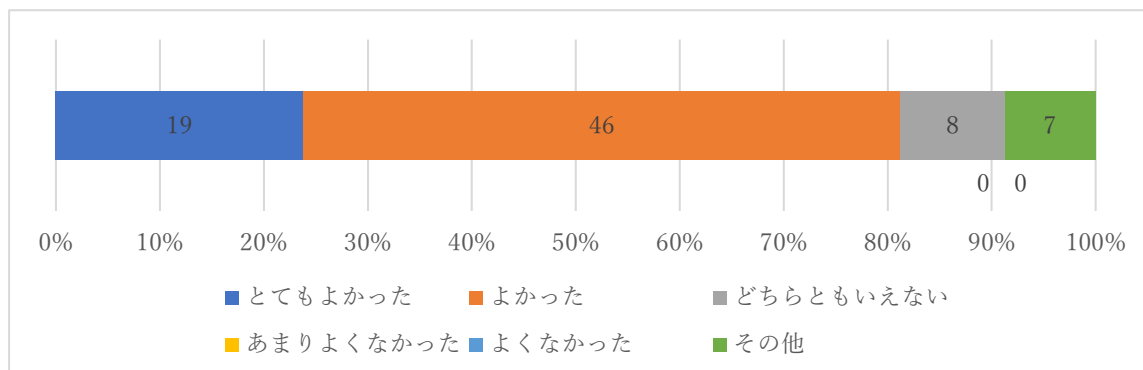
- ・国のプラットフォームの実態がわからないので、今回のプラットフォームの提案等がどういう役割を果たすのか少しイメージできなかった。

Q4.シンポジウムの時間設定について

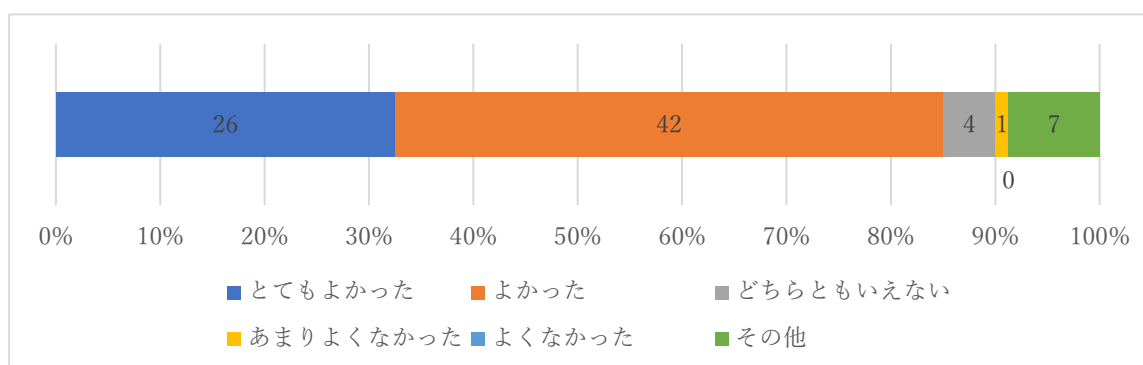


本シンポジウムの各プログラムについて、どのような感想を持ちましたか。

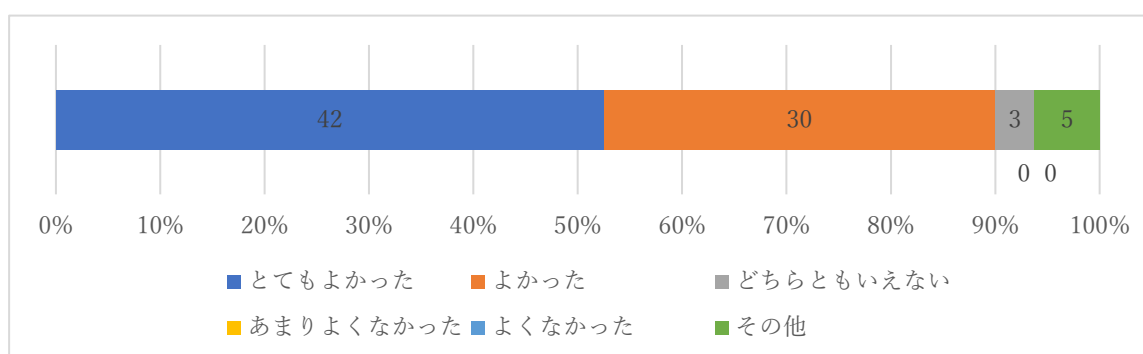
Q5. 第1部 事例発表「道徳教育のゼミ型研修の具体化とその計画的展開」



Q6. 第1部 事例発表「特別支援教育&合理的配慮の実際（ミニ研修）」



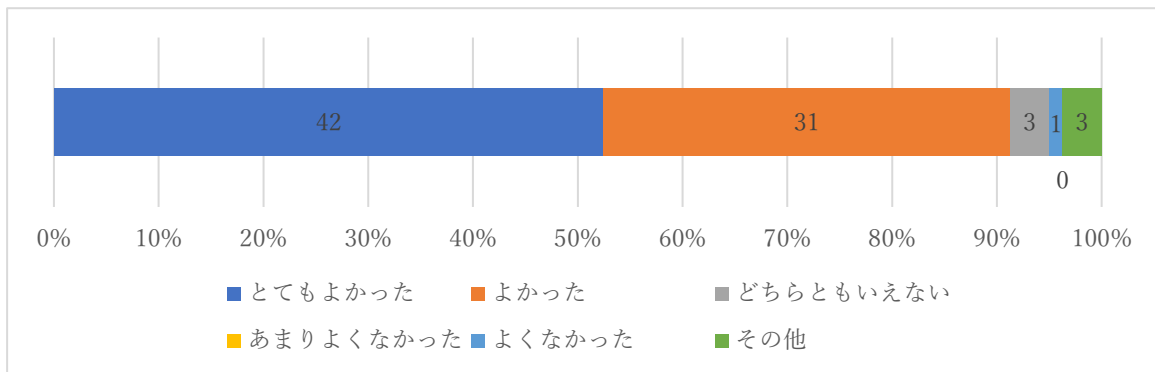
Q7. 第1部「東京学芸大学教育者研修プラットフォーム」について



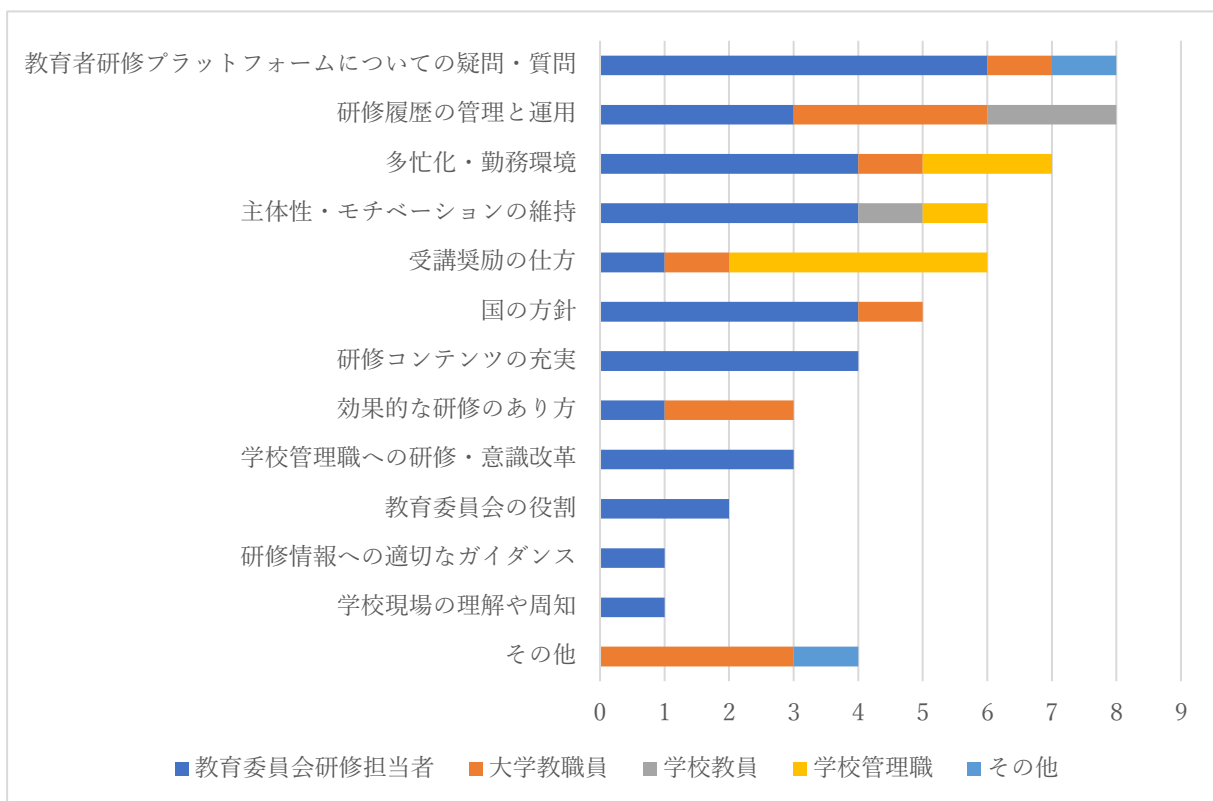
【意見】

- ・ 教員研修が大事だと国が示して自治体では研修に関する予算が増えることがなく、むしろ減らされている現状から考えると、お金がかかるというのはかなり厳しいと感じる。意欲のある先生方はお金を払っても勉強するという二極化になりそう。
- ・ プラットフォームの方針などは分かりましたが、具体例があればもっとイメージしやすくなったと思いました。

Q8. 第2部 パネルディスカッション「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」の現状と今後の方向性を探る」



Q9. 今後の現職教員研修について不安に思っている点や疑問に思う点があれば教えてください。



*複数の観点が含まれる回答はそれぞれに計上する。

○教育者研修プラットフォームについての疑問・質問

- ・教育者研修プラットフォームの具体的な活用方法が知りたい。
- ・主体的な学びの履歴がどのように扱われるか（勤務時間外の受講、校内研修との調整、異動し

た場合はどうなるのか、個人が確実に記録できるか)

○研修履歴の管理と運用

- ・学んだことを履歴として残しておける研修とそうでない研修があること。
- ・研修履歴を書くことが目的化しないかということ。

○多忙化・勤務環境

- ・行政として、いかに主体的に研修に励むかを教員に理解してもらい、環境を整えること。
- ・管理職の負担が大きくなったこと。
- ・学校で行う研修と自身の課題に応じた研修の両方を受講しなければならない場合があること。

○主体性・モチベーションの維持

- ・受講者のモチベーションや主体性、協働性を高める研修をどう作るか。
- ・教員が主体性をもって研修に臨むかどうか。

○受講奨励の仕方

- ・校長との対話に基づく研修を行う上での、校長の指導力。
- ・常に自己申告であることにより、温度差やレベル格差が生じることが予想される。

○国の方針

- ・国のプラットフォームが明確でないこと。
- ・システム導入に係る準備の周知。

○研修コンテンツの充実

- ・現職指導主事が現代の教育課題を深掘りし、教職員研修にどう反映し、体系化するか組織的に対応できていない。
- ・国の研修プラットフォームに教員の個別のニーズやレベルに対応したコンテンツが用意されるかどうか。

○効果的な研修のあり方

- ・オンライン研修が増えている現状であるが、受講者にとって有意義な研修となっているかどうか心配。
- ・研修効果をどのようにとらえるか。すぐに効果が出る研修ばかりではない。

○学校管理職への研修・意識改革

- ・必須の研修なら管理職も納得するが、主体的に選択した研修はどうか。

○その他

- ・若年教員の大量採用とこれまでのノウハウの伝承
- ・実施のための原資の確保
- ・現職教員研修と大学での講義や公開講座等との連携について

Q10.東京学芸大学の現職教員研修で取り扱ってほしい研修のテーマがあれば教えてください。

教育委員会研修担当者	国の現状と課題など内包する研修、著名な大学教授の講義や他業種リーダーの講話、生徒指導、特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、ICT や情報・教育データの利活用、ウェルビーイング、コーチング、カリキュラム・マネジメント、キャリア教育、小中高等の連携、ミドルリーダー向けプログラム、教務主任研修、校長の効果的な受講奨励、校内研修のあり方、受講者の主体性を生む研修のあり方、若手教員に向けたキャリアプランの考え方と重要性、連携・協働に係る内容（学校づくり、参画・運営、危機管理等）
学校管理職	授業力・生徒指導力の向上、実効的なタブレット端末活用授業、不登校問題への組織的対応、学級経営力向上、非認知能力とその育成
学校教員	自立的な学び
大学教職員	大学の専門性を活かした教科教育のコンテンツ、専門的資質を伸長するためのゼミ型研修、全国学力・学習状況調査の活用による指導改善について
その他	教師の力量にかかわる研修：発達、実技、実技理論、教育の質（教員の質を含む）の具体的な基準

Q 11.シンポジウム全体について、ご意見があればお聞かせください。

（抜粋）

- ・エッセンスが凝縮され、コンパクトで大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・教員研修の現状について、問題点や課題も含めて、非常によく理解できました。
- ・国の受講システム前、適切な時期にシンポジウムを開催いただき大変有意義でした。
- ・NITS の動きや住み分け等も分かるとさらによかった。
- ・研修履歴を活用した受講奨励を考えていくのに、バランスのとれたメンバーだった。

以上